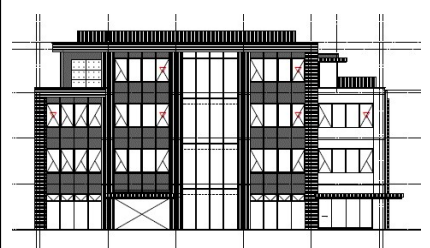


# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大東ガス(株)社屋 新築工事	階数	地上4F
建設地	埼玉県富士見市西みずほ台1-2-12	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、法第22条区域	平均居住人員	175 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2022年5月13日
敷地面積	1,615 m <sup>2</sup>	作成者	酒巻純平
建築面積	858 m <sup>2</sup>	確認日	2022年5月20日
延床面積	2,909 m <sup>2</sup>	確認者	渡辺恭祥



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 87% (80 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 87% (80 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④上記+ 87% (80 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

**LR のスコア = 3.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	事務所ビルとしての機能を果たすとともに、キッチンスペースやショールームを計画し地域交流等を行えるようにした。また、BCP対応として災害等による停電時には非常用発電機を設置し、事業継続及び地域住民の避難場所として機能出来るよう計画した。	
<b>その他</b>	0	
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
窓を大きくとることによって、通風ならびに自然換気を考慮した。また内装材の選定にあたっては、ホルムアルデヒド等による空気質汚染をおこさない材料を選定した。	開口部(窓)を広く取り天井高を高めにとることで広さ感を確保した。同時に、部品・部材の耐用年数を考慮し空間の可変性を高め、ソフト・ハードの両面より空間の快適性を実現した。	植栽によって沿道の緑の連続性を確保、またとしてのパティオを設けことにより、都市空間の活動上のアメニティを向上した。さらにシンボツリーを3ヶ所に配置し地域の街並みや景観へ寄与した。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
設備面において空調計画を省エネ性に考慮したガスヒートポンプ冷暖房機及び全熱交換器を採用し、創エネとして太陽光パネルを設置した。	節水による水資源保護や省エネ性の観点から、洋風大便器について節水性能4.8L(大洗浄時)となる器具を採用し無駄な流出をするよう節水効果を考慮した。	自転車置き場を十分に確保する事により利用者の利便性を計り、自動車利用による交通負荷を抑制した。さらに、駐車場の導入路や荷捌き用・管理用車両の駐車施設を確保し、周辺道路の路上駐車を防ぐ手立てを講じた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 (仮称)大東ガス(株)社屋 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>		-	<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.6</b>	0.15		-	<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40		-	
1.2 遮音						<b>2.2</b>	0.40		-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能						1.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-		-	
1.3 吸音						<b>3.0</b>	0.20		-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.6</b>	0.35		-	<b>2.6</b>
2.1 室温制御						<b>3.0</b>	0.50		-	
1 室温						3.0	0.38		-	
2 外皮性能						3.0	0.25		-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20		-	
2.3 空調方式						3.0	0.30		-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.7</b>	0.25		-	<b>2.7</b>
3.1 屋光利用						<b>3.0</b>	0.30		-	
1 屋光率						3.0	0.60		-	
2 方位別開口							-		-	
3 屋光利用設備						3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策						<b>2.0</b>	0.30		-	
1 屋光制御						2.0	1.00		-	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15		-	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25		-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.1</b>	0.25		-	<b>3.1</b>
4.1 発生源対策						<b>3.0</b>	0.50		-	
1 化学汚染物質						3.0	1.00		-	
4.2 換気						<b>3.3</b>	0.30		-	
1 換気量						3.0	0.33		-	
2 自然換気性能		窓が開閉可能な居室において自然換気有効開口面積が居室面積の1/30以上				4.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33		-	
4.3 運用管理						<b>3.0</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-		-	
2 喫煙の制御						3.0	1.00		-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	<b>0.30</b>		-	<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.2</b>	0.40		-	<b>3.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>2.6</b>	0.40		-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応						2.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性						<b>4.3</b>	0.30		-	
1 広さ感・景観		事務室の天井高が2.9m以上で、すべての執務者が十分な屋外の情報を得られるように窓が設置されている				5.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		執務スペースの29.6%のリフレッシュスペースがあり、かつ自動販売機の設置がある				5.0	0.33		-	
3 内装計画						3.0	0.33		-	
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>2.7</b>	0.30		-	<b>2.7</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>2.8</b>	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数: 床)ビニル床シート20年、カーペット20年、タイル貼65年、壁)ビニルクロス貼20年、タイル貼65年、天井)ボード類30年、合成樹				5.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20		-	
2.4 信頼性						<b>2.2</b>	0.20		-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20		-	
3 電気設備						3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法						1.0	0.20		-	
5 通信・情報設備						2.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30		-	-	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30		-	-	
1	階高のゆとり	階高が3.91~4.01mある。	5.0	0.60		-	-	
2	空間の形状・自由さ	基準階(3階)の壁長さ比率が0.2771である。	4.0	0.40		-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>		-	-	<b>2.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30		-	-	<b>2.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>3.0</b>	0.50		-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>2.0</b>	0.50		-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-		-	-	<b>3.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>		-	-	<b>3.1</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPIm:0.89	<b>4.1</b>	0.20		-	-	<b>4.1</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10		-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.82	<b>2.9</b>	0.50		-	-	<b>2.9</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00		-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価			-	-		-	-	
4.1	モニタリング		-	-		-	-	
4.2	運用管理体制		-	-		-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>		-	-	<b>2.9</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.20		-	-	<b>2.2</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>1.0</b>	0.40		-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.1</b>	0.60		-	-	<b>3.1</b>
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10		-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10		-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法を採用し、分別を容易にしている。	4.0	0.20		-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70		-	-	
1	消火剤		-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>		-	-	<b>3.0</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率が参照値に対して87%	<b>3.5</b>	0.33		-	-	<b>3.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.5</b>	0.33		-	-	<b>2.5</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25		-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>2.0</b>	0.50		-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33		-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	-	
1	騒音		3.0	1.00		-	-	
2	振動		-	-		-	-	
3	悪臭		-	-		-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-		-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート



■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)大東ガス(株)社屋 新築工	BEE	0.9	BEEランク	★★
------	-------------------	-----	-----	--------	----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.5	+	2.0	=	5.5 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上  	非常によい 6.8以上   	すばらしい 8.0以上    	

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.5
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.5
<配慮した内容を記述>			
敷地外環境対策の一環として自転車置き場を確保する事により利用者の利便性を計り、自動車利用による交通負荷を抑制した。 また、地球温暖化への配慮については空調の主な使用冷媒をHFCのR32とし、地球温暖化への影響を極力少なくするよう考慮している。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0
<配慮した内容を記述>			
植栽計画においては、沿道の緑の連続性を確保し、角地の特性を生かし角きり部には植栽を設けた。 また、地域の街並みや景観へ寄与するべく、シンボツリーを3ヶ所に配置した。			

: 入力欄